

よくある質問

－ 子どもを麻疹から守るために

麻疹に関する質問

Q 麻疹は重い病気になりえますか？
はい。麻疹は重篤になると死亡を含む深刻な合併症を引き起こすことがあります。例えば、ワクチン未接種の子どもが麻疹にかかると、5人に1人は入院が必要になり、20人に1人は肺炎を発症し、1,000人に1人は致命的となる脳の炎症を引き起こす可能性があります。

Q 麻疹の症状にはどのようなものがありますか？

麻疹の症状は通常、接触後 7～14 日で現れます。一般的な症状は高熱、咳、鼻水、発疹、目の充血や涙目です。発疹は通常、熱が出てから数日後に、まず顔に現れ、それから下方へ広がります。

Q 麻疹にかかった場合、治療できますか？

麻疹に対する特効的な治療法や治癒薬はありません。医療は症状緩和と対症療法が中心です。子どもを麻疹から守る最善の方法は MMR（麻疹、おたふく、風疹）ワクチンを接種することです。

Q 子どもが麻疹患者と接触したと思われる場合はどうすればいいですか？

保健当局からお子さんが麻疹ウィルスに接触した可能性がある旨の連絡が入る場合があります。その場合は、保健当局の指示に従ってください。お子さんが麻疹の症状を示し始めたら、すぐにかかりつけの医者または病院に連絡して、どのように対応するべきか指示をもらってください。病院側が安全な医療提供ができるよう、到着前に電話連絡してください。

MMR ワクチンに関する質問

Q MMR ワクチンは安全ですか？それはどうしてわかりますか？

はい。MMR（麻疹、おたふく、風疹）ワクチンは 50 年以上にわたり何百万もの子どもに安全に投与されてきました。Centers for Disease Control and Prevention（CDC、疾病管理予防センター）や Food and Drug Administration（FDA、米国食品医薬品局）はワクチンの安全性を継続的に監視する複数の安全性システムを運用しています。MMR ワクチンは世界的にも安全性が確認されています。

Q MMR ワクチンの副反応やリスクは？

MMR ワクチン接種後、注射部位の痛み、発熱、発疹などの軽微な副反応が起こることがあります。通常は数日で自然に治まります。高熱による熱性けいれんなど、より重い副反応は稀ですが発生することがあります。熱性けいれんは一般に永続的に影響を残すものではありません。

Q MMR ワクチンに長期的なリスクはありますか？

MMR ワクチンは何十年にもわたって使われていますが、長期的な有害性を示す証拠はありません。

Q MMR などのワクチンは自閉症を引き起こしますか？

何十万単位の子どもの対象とした大規模な研究により、ワクチンと自閉症の間に関連はないことが示されています。

子どもの予防接種に関する詳しい情報：



麻疹に関する質問
cdc.gov/measles/about/questions.html



子どものワクチン接種について
cdc.gov/vaccines-children/about/index.html

MMR ワクチンに関する質問

Q MMR ワクチンの有効性は？

MMR（麻疹、おたふく、風疹）ワクチンは非常に有効です。2回接種で約97%の人を麻疹から守ります。ワクチン接種をした人が麻疹にかかることは稀にあります。ただ、発症しても他の人への感染力は低く、通常は症状が軽く合併症も少ないです。

Q 子どもにワクチンを接種させない場合、本当に麻疹にかかる危険性が高まりますか？

麻疹は極めて感染力が高く、世界で最も感染力の強い病気の一つです。麻疹に対する免疫がない人全員にリスクがあります。渡航の増加と MMR ワクチン接種率の低下により、麻疹の発生が増えている傾向が見られるため、接種はさらに重要になっています。

Q 海外に行く予定があります。子どもを麻疹から守るにはどうしたらいいですか？

麻疹の流行は世界各地で発生しているため、海外渡航前に家族全員が MMR ワクチンで麻疹の予防を行っておくことが大切です。推奨として、生後 6～11 か月の乳児には MMR を 1 回投与、12 か月以上の小児・ティーン・成人で未接種の人には 2 回投与（28 日の間隔をおく）が推奨されます。旅行の少なくとも 2 週間前に接種しておくことが最良の保護になります。

Q 生まれたばかりの赤ちゃんは麻疹に対して免疫がありますか？

免疫を持つ母親から生まれた赤ちゃんは、母子免疫によってある程度守られています。この保護は生後数か月は効力がありますが、徐々に弱まっていきます。MMR などのワクチンは、麻疹に感染する危険を負わずに免疫を得ていく安全な方法です。

Q なぜ赤ちゃんに早期に MMR ワクチンを投与するのですか？

麻疹のような重篤な感染症に罹患する前に赤ちゃんを保護するため、早期の接種が推奨されます。母子免疫の効果が薄れるのは生後 12～15 か月頃であるため、通常この時期に初回 MMR ワクチンを接種します。この年齢で麻疹に感染すると、深刻な合併症になる可能性が高くなります。

Q 多種類のワクチンを同時に受けることで赤ちゃんの体に負担になりませんか？

いいえ。健康な赤ちゃんは日々何千もの病原体に対抗しています。ワクチンは病原体から作られた抗原によって、病気に対抗する免疫を体内で作らせるためのものです。同日に複数接種しても、赤ちゃんが日頃接触している抗原量のごく一部にしかありません。

Q 現在子どもの体調がよくありません。今日ワクチンを受けても大丈夫ですか？

お子さんの病状について教えてください。いつ始まり、どのような症状ですか？軽い咳、耳の痛み、微熱、下痢などの軽症であれば通常は接種可能です。軽い病気であれば接種を遅らせることによる利点は特にありません。子どもが遅れることなく深刻な病気に対する保護を受けられるよう、予定されたとおりにワクチンを接種することが大切です。

子どもの予防接種に関する詳しい情報：



麻疹に関する質問
cdc.gov/measles/about/questions.html



子どものワクチン接種について
cdc.gov/vaccines-children/about/index.html